令和２年　２月　７日

松阪市議会

議長　大平　　勇 様

報告　広報広聴委員会

委員長　堀端　　脩

行　政　視　察　報　告　書

標記の件について、下記のとおり行政視察を行いましたので、その内容等を報告します。

記

１．視察の日程　　令和２年１月２８日（火）～１月２９日（水）

２．視察先　　滋賀県彦根市　　兵庫県丹波市

３．広報広聴委員会

４．参加委員　　委員長　堀端　　脩、副委員長　松岡　恒雄（副議長）

松本　一孝、赤塚　かおり、殿村　峰代

楠谷　さゆり、山本　　節、大平　　勇（議長）

５．報告書作成　　委員長　堀端　　脩、松本　一孝、殿村　峰代

６．報告書提出　　委員長　堀端　　脩

７．視察項目

Ⅰ．滋賀県彦根市　　１月２８日（火）

１）議会の広報広聴の取り組みについて

Ⅱ．兵庫県丹波市　　１月２９日（水）

２）議会の広報広聴の取り組みについて

Ⅰ．滋賀県彦根市　　１月２８日（火）

１．彦根市の概要

⑴市域面積：１９６．８７平方キロメートル

⑵人口　　１１３，０２７人　　４８，３８７世帯

⑶特徴：彦根市は、昭和 12 年（1937 年）2 月 11 日に市制を施行し、以来びわ湖東北部の中核都市として発展を続けてまいりました。びわ湖と鈴鹿山系に囲まれた豊かな自然に恵まれた本市は、江戸時代に彦根藩 35 万石の城下町として本格的な歩みを始め、現在に至るまで歴史的、文化的な風情を色濃くとどめるとともに、中世から近世にかけての貴重な歴史遺産が今なお、数多く存在しています。

▲彦根市役所仮庁舎アル・プラザ彦根　大学サテライトプラザ A 教室にて

⑷対応者

彦根市議会

副議長　安澤　勝

視察対応プロジェクトチーム　谷口典隆議員・森田充議員・野村博雄議員

２．視察項目

⑴彦根市市議会副議長　安澤勝氏挨拶

「ひこにゃん」で有名になった

関ヶ原の戦い 1602 年築城彦根城ご当地キャラ博で 2 日間９万人。

合併せず五市 4 町で広域運営している。

⑵議会対応

〈視察対応プロジェクトチーム〉

平成 28 年 10 月から正副議長で。議会改革特別委員会がメンバーとなり説明。

①議員の説明

議員定数

昭和 50 年　議員 30 人会派要件 3 人

平成 11 年　　28 人

平成 23 年　　24 人　会派要件 2 人

議運が２会派のみになったため、良い議会活動に結びつくために変更。

現在５会派となっている。

②予算を常任委員会審査で開始。（平成２８年より）

③議会改革の取り組み

平成２４年「議会に関する市民アンケート」を実施

議場開放促進委員会　８名

広報委員会　　８名

広聴委員会　　８名

一番難しいのは議員の割振り（議員の経験・得意分野などを加味して決定）

毎年議会運営を変えていく条例

⑶議会報告会

広報　チラシ・ポスター・フェイスブックなどなどの工夫

1 回目　議場・公民館…一般論しか話せないように規定。

議員のプロパガンダにならないように。

2 回目　45 人…面白くないものになったためか。

テーマに沿わないものも話すのはどうか。

3 回目　両方の意見が交わされた経過・課程を報告するためにテーマに絞った。

テーマに絞りすぎて大変なことになったこともある。

〈報告会の在り方の形式について〉

①平成 27 年 12 月ワークショップ形式での開催

ファシリテーターは広聴委員会が行う。

テーマ：「女城主直虎を生かした集客戦略について」

対象：井伊直弼公生誕 200 年祭実行委員の構成委員

各種団体に集まっていただく。集客には問題なし。

グループごとにまとめ集約⇒市民の意見をまとめ議会から市長へ政策提言

市政に反映ができたという形・取り組みができた。

②平成 28 年 2 月常任委員会ごとにワークショップを開催

各消防団にデジタル無線が配布されることになった。

③新たな取り組み・テーマを変えて

・若年層若者の投票について彦根市の低投票率について

・投票率の低さは議員が投票率を上げるために活動していないという評価を自ら改善させるためというマスコミの分析で各種新聞に載った。

・各集団だけからの話で本当にこれだけでいいのか。

・一般市民との声が聞けていないのでは

〈報告会の変遷経過〉

①平成 29 年従来の形で開催

第１部主要事業の報告

第２部意見交換会（委員会ごとにテーマ設定）

企画総務消防…防災のまちづくり

福祉病院教育…小中一貫教育と学力向上について

市民産業建設…稲枝駅整備と西口開発について

⇒テーマを絞りすぎて大変な目にあった。

地域にとって一番ホットな話題についてあえて手を入れた形になった。

具体的な問題点や状況が分かり、一般論的な話し合いではなくなった。

難しい話題で大変な状況であったが、この応対だけで議員の資質向上になった。

現状がこうであるという報告だけでいいと思うが、そこからさまざまな意見を聞くことによって議員のスキルアップになった。

②さらに新たな方式

ワールドカフェ方式（意見を言いっぱなし）

これが定着⇒「カタリバ」カフェのような雰囲気の中で

メリット：気軽に意見を出しやすい。一般市民に参加してもらいやすい。

デメリット：ある程度の参加者が必要。

議員のファシリテーターのスキルアップ。

意見の集約が困難。

⇒彦根大学の学生とコラボしてファシリテーターを担ってもらえるようにして議会に参加してもらう。

③さらに新たにオープン参加型

ａ：平成３１年１月２６日（土）大型商業施設で防災について考えてもらう

テーマ「ひこねの防災について考える」

防災食の試食・配布　　「ひこにゃん」に参加してもらう

ｂ：令和２年１月２６日（日）

テーマ「どうすれば投票率はアップするのか」

残っている本物の投票用紙２００枚・投票箱を使用。

戦国武士の人気投票。画像表出に許可を取る手間がかかった。

缶バッチの協賛　先着２００個。１２５名参加。

開票作業の大変さ。案分票をわざと作った。

一票の重みを解ってもらう。

議会報告会の従来の方法ではないものを考えて実行する。

選挙管理員会との違いを出す。

⑷政策提言

閉会中の継続調査を各常任委員会の調査する内容・対象を明確にすることをせず、横浜などの例を見習い、ざっくり行う。

各常任委員会が政策提言しようとしているテーマに沿って視察・検討

⑸議場開放

①平成２０年より議員有志「議会開放プロジェクトチーム」

②平成２５年「議会開放推進委員会」予算執行できるように。

③平成２７年「広報公聴活性化推進委員会」

「議場開放促進委員会」

子ども議会の取り組み　：事前研修会を行う

議場コンサート（議会開会日の午後）

出演者の選定・ジャンル

音源提出・委員会で視聴して選出

これらは議場に足を運んでもらうために行っているが、傍聴者数は伸びない。

⑹広報誌「ひこね市議会だより」

年４回発行　５２０００部（ページ２０～２８）

質問の状況の掲載ページ１枚に２人の割合で掲載に。

滋賀大学生の意見を取り入れた。

３．質疑応答

Ｑ１．議員全員が３組織に属されている。特に広報はどのように動いているか。

Ａ１．広報：フェイスブックは議員が作り、事務局の検閲の後、アップする。

２～３日以内に。リアルタイムで。告知がほとんど。

Ｑ２．議会報告会主要事業の時間配分は。

Ａ２．最大１０分。紙資料を配布するなら５分。その後質疑応答。

議会報告会に来られる方は話したい方ばかりと考え、話せる時間を多くとる。

Ｑ３．クイズ形式の投票率を上げる報告会。

Ａ３．手の出し方。執行部がしないから議会がやっている。リードをしている。

なぜ予算をつけないのかと市長に提言することができる。

Ｑ４．フライヤーの大きさはとても参考になったが、配布の仕方は？

Ａ４．ポスターは議員一人三枚という割り当て。あまり効果なし。

フライヤーは議員に割り当て。１～２人は連れてくる。

予算取りが難しいカラー刷り。

使用会館（ビバシティ彦根）で往来する市民に渡す。当日も。

４．所感

ベテランの若い議員によるけん引力が、彦根市のこの状況を作り出しているが、実に様々な試みがなされている。しかし、継続的に市民の関心を引くことは容易ではない。こ

れは、人間の脳が 3.5 日で飽きる性質を持っていることも手伝って、政治への無関心はどこも同様であると感じた。

これらは政治が、生活に大きく影響するということへの事実や民主主義は市民同士のディベートから生まれるべきであるということへの教育的見地が醸成されていない日本全体の問題でもある。

これらの問題を内包したまま議会を改革していくというチャレンジは、絶え間なく広聴し、広報する実践にあるということかもしれない。

▲彦根市役所仮庁舎前（彦根駅前）にて撮影

Ⅱ．兵庫県丹波市　　１月２９日（水）

１．丹波市の概要

⑴面積：４９３．２１平方キロメートル

⑵人口：６３，９０４人　世帯数　２５，９２０世帯

⑶特徴：丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、北東では京都府、南東では篠山市、南西では西脇市、多可町、北西では朝来市と境を接し、市内の南部地域は阪神都市圏、北部地域は京都府との関わりが比較的強くなっている。地形は、中国山地の東端に位置し、急斜面を持った山々によって形作られた中山間地域となっている。

▲丹波市議会委員会室にて

⑷対応者

丹波市議会

議長　　林　時彦

広報広聴委員長　　近藤　憲生

広報広聴副委員長　　大西　ひろ美

議会事務局総務課総務広報係

係長　柿原　範久

係　山崎　陽子

２．視察項目

⑴市議会だより「たんばりんぐ」

１）議会だより革命

読者層を広げるため、ターゲットを３０代から４０代の子育て世代の女性に設定し、イクメンパパはもちろん、子ども世代、親世代への広がりを期待している。また、これまでの中心的な読者層である６０代以上の方のも読みやすいよう、文字サイズなど読みやすさにも配慮している。

２）親しみやすい誌面づくり

議会だよりに対する市民の「苦手意識」を払拭し、「議会だよりって意外と読みやすいし、読めば面白いんだな」と思ってもらえるよう、親しみやすい紙面づくりを心がける。

３つのポイント

① ターゲットは「３０代から４０代の子育て世代の女性」

ターゲットを絞ることで、記事の選定時などの判断基準にする。

② めざすは、「５分で読破できる議会だより」

読者の飛ばし読みを前提にした編集。

③ 常に「読者目線」を忘れずに。

読者目線で要点・論点を整理。

３）読んでみたくなる作戦会議「読者モニター会議」

より親しまれる議会だよりをめざし、アイデアや意見を出してもらい、議会だよりを読むきっかけづくりとして、高校生を対象に「読モ会議」を実施している。

４）配布先等について

市内全戸（主に自治会加入世帯）、コンビニエンスストアー、市内公共施設、図書館、市内高校、商工会議所、パーキングエリア等に配布している。

⑵市民との意見交換会に関する企画

市民の意見交換会に対する敷居をいかに低くし、誰もが参加しやすい雰囲気づくりに努めるかについて、重点的に見直しを行った。

「議会報告会」から「市民との意見交換会」に名称が変更されていることから、議会からの報告よりも議員が市民（参加者）の生の声を聞く場としての趣旨に重きを置くため、時間配分を見直すとともに、終了時刻を早めるため開始時間を午後７時からに変更した。また自治会長や住民協議会長などの義務的な参加が大半を占めるなか、子育て世代や若い世代の参加を促すため、ＰＴＡや子ども園、女性団体等にも案内をつくり「出入り自由」とするなど、形式的な部分を改善した。

３．所感

丹波市では、「議会だより」だからという、概念を無くし、とにかく「読者」目線で物事を考えることに専念をしている。また観光資源が少なく、市の広報が危機感を持って活発的に動いているのが感じられ、市の広報が積極的に議会だよりの設置場所をコンビニ等、民間などにも協力を仰いでいる。

このことから一番大事なのは、議会だよりだからという概念を解き放ち、読む側の気持ちを考え読者目線で読みやすく興味を持ってもらえるような構成を考えるべきであるという事がわかる。

議会報告においても、従来型の自治会等に動員をかけるやり方でなく、報告よりも意見交換会に重点を置き、市民が何を必要としているかを考慮している。市民が何を求めているのか、従来の議会報告会という、議会側からの目線でなく、市民目線での考えは、松阪市議会の議会報告会も見習うべきであると感じられる。より柔軟な考え方で市民目線で行うべきである。

▲丹波市議会議場にて